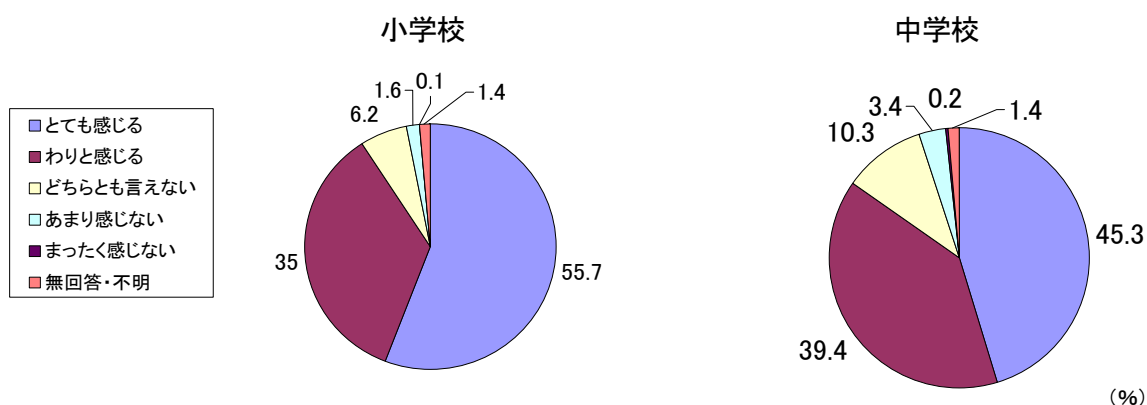


## 今後の教員の勤務の在り方について

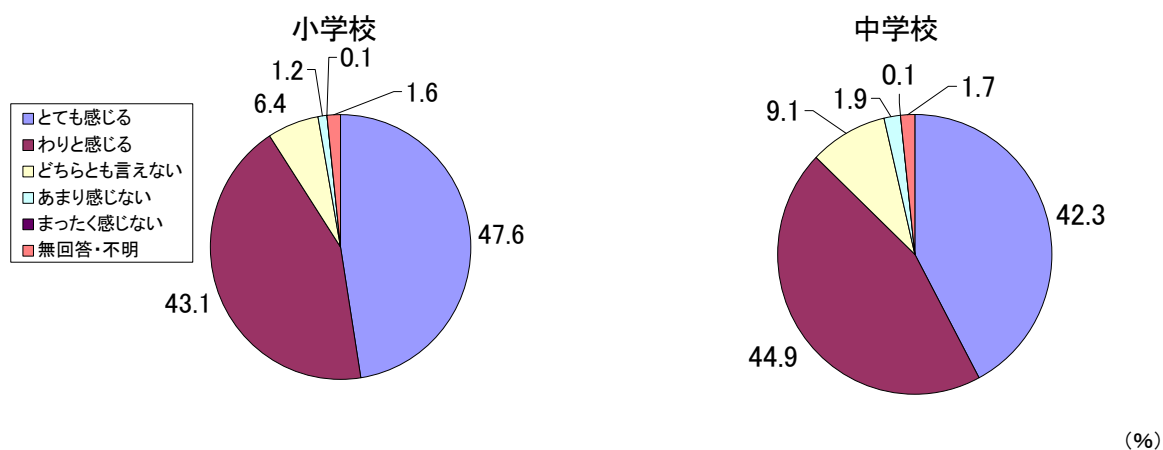
## I 教員の勤務を巡る状況

- ・組織的、一体的な勤務がなされておらず、教員個々人の判断で働いているとの指摘がある。
- ・平成18年の教員勤務実態調査の結果から、授業やその準備以外に様々な業務を行っており、授業準備に十分時間が取れていないと感じている教員も多い。

授業の準備をする時間が足りない

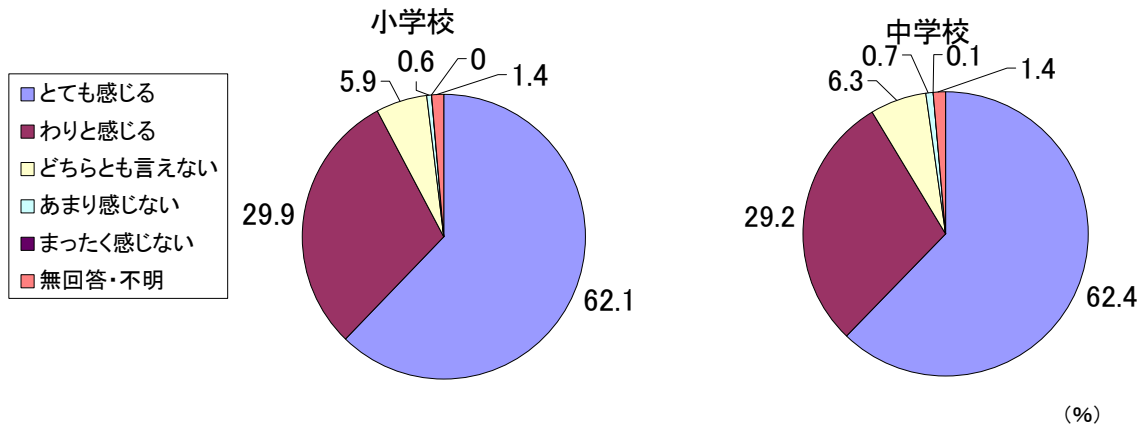
出典：平成18年教員勤務実態調査結果

- ・平成18年の教員勤務実態調査の結果から、教員の勤務の負担が大きいことが判明。  
(参考資料1参照)
- ・同様に、教員はやりがいを感じつつも、勤務の負担感が高いことが判明。

教員の仕事はやりがいがある

出典：平成18年教員勤務実態調査結果

## 教員が行うべき仕事が多すぎる



出典：平成18年教員勤務実態調査結果

- ・精神疾患による休職者も年々増加しており、平成19年度で4,995人（過去最高）を記録。（参考資料2参照）

## II 今後の教員の勤務の在り方

今後の教員の勤務の在り方としては、以下のようなものが考えられるのではないか。

### (1) 組織の一員として働く

- ・教員は、すべてを抱え込んで個人の判断で対応するのではなく、管理職の下、教員以外の専門人材や地域人材と連携しながら、学校や児童生徒が抱える課題に組織として対応する。

### (2) 授業を中心にして働く

- ・教員は、学校という組織の中で、その専門性の最たる部分である授業を中心にして勤務する。授業以外の業務については、多様な専門人材、地域人材を積極的に活用し、適切な連携・役割分担を図っていく。

### (3) 勤務負担が軽減され、心身ともに健康に働く

- ・教員の勤務状況が適切に把握され、その結果、過重な労働となっている場合には、その過重な負担が軽減されるとともに、健康管理が適切に行われるようにする。
- ・教員が主に担うべき授業の質の向上のため、その準備に十分に時間が取れるようにする。